

研修員に聞くーお国自慢あれこれ



ジェフリー・オフアエ・エリさん
(パプア・ニューギニア)

Mr. Geoffrey Ofae Eri

パプア・ニューギニア農業家畜部、食糧安全保障、
灌漑技師。

国際協力事業団北海道国際センター(帯広)「畑地帯
における農業開発」コース(2001年5月28日～8月
23日)で研修。



る。この日のピアノ演奏は集まりの後のくつろぎコンサートといったところだったようだ。夜などよくひとりで弾いている姿を見かけるらしいが、ご本人によると「楽譜は読めません。ピアノは14歳頃に聞き覚えで弾き始めました」ということだが、なかなかの演奏であった。

ロビーに流れるピアノの音

このインタビューの約束時間に帯広センターに到着した時、ロビー横のラウンジからピアノの音が流れていた。バラード風の穏やかな音色に、「あっ、良い時に来られた」と喜んだ。そっと覗くと一人の研修員らしい男性がピアノに向かい、10人ほどの人々はその演奏に耳を傾けていた。

「すけっと百人会」との交流

実は、その研修員氏がその日の約束の人、ジェフリーさんで、集まっていたのは、「すけっと百人会」のメンバーの方々であった。「すけっと百人会」は十勝の農業、農村の活性化を進めるための事業を通じ、地域おこしや村づくり、自然環境の保全や国際化に寄与することを目的とする帯広市にあるNPOで、活動の一環としてJICA研修員に研修とは別に十勝での生活や農村での活動を体験してもらう機会を設けてくれてい

「4日前に長女が生まれました」

個人に関わる情報だが、故国に待つ奥さんの名前はセリーヌさん、「とても美人」だそうだ。3歳の長男と、このインタビューの4日前に長女が生まれた!「会えないのがつらい」。

ところで、首都のポートモレスビーは近代的な都会でスーパーマーケットなどで買い物もするが、一步都会を離れば自給自足が可能である。ジェフリーさんも島の北部にあたる故郷の町モベアベに帰れば、海に潜ってはカニ、タコ、ロブスターが捕れ放題。陸にあがればサツマイモの一種カウカウや、さご椰子(幹の髄から澱粉がとれる)など食料には事欠かず、地方に行けばお金がなくても生活できる社会がまだ残っている。

研修成果を生かして灌漑の改良を

「私たちは土地の利用にはたくさん
の問題を抱えているのですが、今回の
研修に参加して、表土流失の防止(パ
プア・ニューギニアの国土は土の下30
~50センチは堅い岩である)や灌漑設
備の改良に関してとても勉強になりま
した」。「研修で各地のダムを視察し
ました。国ではダムは発電用だけで、
灌漑目的のはありません。ポンプでは
効率が悪いし、水田もあるので灌漑用
ダムは必要だと感じました」。

帯広のことは知らなかったが日本人
のことは知らないわけではなかった。
話の中で地図を広げるとニューギニア
島の東の端に、ブーゲンビル島とかラ
バウルという地名が目に入った。今も
朽ちた戦車が木立に埋もれていると聞
いた。あまり知らない国の一つとも言
えるが、案外近い国だったのかという
感慨を覚えた。

公用語は英語であるが、もっとも
広く話されているのは植民地時代の
ドイツ語、英語が混じり合った独特
のピジン英語である。そのほかにモツ
語というのもあって、「綴り通りに発
音するので日本人には覚えやすい言
葉だと思います」。

国土面積46.2万平方キロ、人口441
万人(1998年)。



ジェフリーさんの伴奏でイランの研修員が故国の歌を披露した(センターのラウンジで)